

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2019

事業所番号	2690900184		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都納所淀の家 1号館		
所在地	〒612-8279 京都市伏見区納所北城堀7番11		
自己評価作成日	平成31年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	2019年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは利用者の尊厳と自由を大切に、施設の枠にとらわれない開放的な環境の中で職員と共に穏やかで明るい生活を送れるように支援しています。地域の方々との交流を図るために、地域の保育園・小中学校の子供たちと利用者との交流の機会を設け、地域社会に参加できるよう連携を深めている。利用者が季節・文化を感じ楽しく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市伏見区南部、京都競馬場の近くの旧国道に面した住宅街にある開設7年になる2ユニットのグループホームである。今年になって開設以来の管理者や何人かの職員の退職があり、現在は施設の経験が長い新管理者を中心に新旧の職員が意見を交わし、理解を深め、職員集団として和気あいあいとチームワークを形成、職員がそれぞれのできることに取り組み、落ち着いた雰囲気となっている。管理者は運営推進会議を通じたこれまでの外部との連携を大事にし、要介護度や認知症ステージの高い利用者も含めて自由な暮らしを支援している。利用者の誕生日には職員手作りの希望の献立、パースディケーキとお祝いカードをプレゼントされている。ふだん利用者が「ジグソーパズルがしたい」「洋服が買いたい」「パンが食べたい」等、自由に希望を言い、職員は工夫して希望をかなえている。時には保育園児や小学生が遊びに来てくれたり、淀競馬場での花見を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内で周知できるよう掲示し、共有実践へとつなげている。	法人の理念を踏まえて、開設後に管理者や職員の話し合いによりグループホームの理念「その人が地域のなかで自分らしく生活を共にするパートナーであるよう支援します」を策定している。パンフレットに掲載していない。利用者や家族に周知を図っていない。ホーム内に掲示しているものの職員の唱和や職員会議での話し合いはない。利用者と地域住民との交流は薄い。	グループホームの理念は職員にとって日常の業務の核となるものである。年度初めには改めて見直したり、毎月の職員会議では議題の話し合いの前に理念を確認しあったり等を行うこと、また利用者や家族、地域の人には理念の周知を図ること、以上の2点が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会ではフェス・RUN伴等に参加できているが、自治会行事には寄付等でしか参加できていない。	利用者はふだんホームの周りを散歩したり、近くの店に買い物に行っている。近くのピノキオ保育園の園児たちが来訪、歌やおうぎを披露してくれる。近くのあすかデイサービスでの「オレンジクラブ」に利用者を同行して「リハビリ体操」等を地域の高齢者と共に楽しんでいる。地域貢献としては相談対応をしている。	グループホームは利用者にとって自宅である。新しく引っ越してきて、散歩に行くと楽しい場所、近くに住んでいる人とおしゃべりして友達になれる人、買い物先、郵便局、美容院等、どこにあるのか。利用者の地域生活を支援することが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での勉強会や地域交流会による関わりの中で認知症への理解へとつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や指摘等を踏まえサービス向上に活かしている。	運営推進会議は利用者・家族、淀地域包括支援センター、学区社共、金井病院、薬局、あすかデイサービス、久御山デイサービス、ひだまり居宅介護支援センター等が委員となり、隔月に開催、会議録は全家族に送付している。資料の配布と口頭による状況説明の後、意見交換している。委員から「ラン伴」の取組の情報を聞き、うちわで制作する等、参加・協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区担当者との連携に加え、ケースワーカー担当者と連携を図り、協力体制を築いている。	京都市伏見区には報告や相談を怠らず日常的に連携している。地域ケア会議に参加、「ラン伴」の取組に協力している。認知症ネットワークに登録している。介護相談員の来訪を申し込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について書面明記・マニュアル作成・職員研修を実施、基本施錠しているが短時間でも開錠時間帯を設け取り組んでいる。	身体拘束をテーマに職員研修を年2回実施、職員は11項目の身体拘束、やむをえず拘束する場合の3要件、スピーチロック等について認識している。何人かの利用者について居室内に夜間のみセンサーを設置しており、家族に同意をとっている。玄関ドア、ユニットドア、非常口等は日中施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて認識・理解を深め虐待防止に努めている。	2	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生保対象者・身寄りのない方が後見人制度を多く利用している為、制度について話す機会もあり後見人との連携により活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん解約時にも説明等を丁寧に行い、トラブルや苦情等の防止も含め、理解・納得されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・行事等に参加される機会は少ないが、来設時等には交流出来るよう心掛けている。	家族には推進会議の配布資料により活動状況を報告している。家族の面会は多く、ほとんどの家族は毎月来訪している。面会の際には職員と情報交換し、利用者の状況を把握している。管理者と個人的にさまざまな話や相談をする家族もいる。「金銭管理の報告は毎月ほしい」という家族の意見があり、裏に領収書を貼って収支報告書を毎月家族に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでのミーティング実施にて機会を設け、希望があれば適宜対応している。	グループホームのユニット会議を毎月開催、運営の検討、利用者のカンファレンス、内部研修をすると共に職員間の情報共有を図っている。研修は法人の資料をもとにさまざまなテーマで毎月実施している。会議では職員は積極的に意見を出し合い、運営や利用者対応について参加している。管理者は職員の日常の様子から判断して個別面談の機会を設ける事もある。職員は管理者について「話しやすい。意見を聞いてもらえる」という。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修・資格取得を促し、資格手当や賞与査定、自己評価などあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などの外部研修参加、法人内研修も月1回実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等を同業者との交流の場とし、地域周辺施設との連携も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に施設での生活に慣れ親しめるように配慮し、コミュニケーションを積極的に行い信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族もしくは代理人やケアマネ・相談員等を通じて情報収集し要望等の把握を行い、今後の信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から傾聴し抱えている問題点を把握することで、今必要としている支援順位を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする事を意識し、互いに気兼ねなく交流できるよう雰囲気づくりや信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や後見人等の存在や絆を大切に、利用者を共に支えていく信頼関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・手紙・電話等の連絡方法を取り、入居前後の人間関係が希薄しないように支援している。	利用者の友人だったという女性が夫婦で来訪、利用者は喜んで談笑している。キイパーソン以外の親族が面会に来たり、手紙をくれる人がいる。手紙には利用者也職員の支援で返事を書いている。	長い人生を過ごしてきた利用者がグループホームで最後の段階を暮らしている。昔可愛がっていた甥や姪、今はどうしているか。近所で仲良くしていた人、趣味で友達だった人、仕事仲間等々、もう一度会ってみたい人がいる。夫や妻に初めて出会った所、よく見に行っていた桜や紅葉の名所、毎年見ている祭り等々、もう一度行きたいと思っている。このような会いたい人、行きたい所への思いを支援することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中でも利用者間のコミュニケーションを促し席配置や隣人関係を考慮した支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも相談等に応じ適切なフォロー・対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や生活リズムを把握し家族等にも聞き取りなどして、利用者本位の希望や意向に沿えるよう努めている。	契約時に管理者が利用者と家族に面談、種々の説明をすると共に、利用者の介護や医療の情報を収集している。同時にグループホームでどんな暮らしを希望しているかを利用者・家族から聴取している。「にぎやかに暮らしたい」「みんなと仲良くしたい」等、利用者の思いを記録している。出身地、生家のこと、現役のときの仕事、夫や妻、子ども等結婚生活のこと等、利用者の生活歴の記録がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染んだ生活道具などを使用することにより、今までに近い生活空間を維持。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間による利用者把握に努め、主治医との連携により心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りにて各位の問題点を抽出し、状況状態の変化に応じ、ユニットミーティングのケアカンファレンスにて検討、プランに反映させている。	利用者が入居後にケアマネジャーがアセスメントし、介護計画を作成、家族に説明後確定している。介護計画に職員や家族の意見は入っていない。介護計画はほとんど身体介護の項目であり、暮らしのなかのその人の楽しみ、即ち固有の「したいこと」の項目が入っていない。介護記録はバイタル、食事量、水分量、排泄、入浴、服薬等のデータと時間ごとの利用者の様子を書いている。介護計画の実施記録はしたかどうかの点検記録のみである。モニタリングは「長期目標」「短期目標」「サービス内容」「実施状況」「目標達成度」「満足度」「プランの変更」の項目について計画作成担当者が3か月ごとに点数評価をしており、コメントの記載はない。	介護計画は家族、職員、かかりつけの医師や看護師等の意見を反映して作成すること、介護計画には身体介護の項目のみならず、どんな重度な利用者にも暮らしの中の楽しみの項目、その利用者がしたいことを入れ、利用者ごとに固別の計画にすること、介護記録は暮らしのデータや様子のみならず、介護計画を実施したときの利用者の反応、発言や表情を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは「介護計画」「実施状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について、点数ではなくコメントを書き、毎月実施すること、以上の4点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌の記録を通じて、情報を共有し利用者にあったケアへ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生保対象者の方や身寄りのおられない方に対しては随時、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会の開催により地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を踏まえ、提携病院を中心に訪問診療・歯科等による連携を密に医療面での安心確保している。	内科、整形外科、耳鼻科等の定期受診は家族の意向により、協力医療機関である金井病院を利用しており、内科医は毎月往診にきてくれる。他科は職員が同行している。歯科は訪問歯科医が毎月来訪、検診してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療看護師・医療連携看護師と共に連携し、主治医の指示のもと対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院のよる訪問診療をはじめ体調管理に関して、診療情報の共有・電話等の相談体制も整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に施設ハード面・ソフト面にも終末期・看取りは難しい為、最終的には医療機関への移行の旨を家族に伝えた承を得て対応しているが、状況状態に合わせ医療機関・主治医と連携し支援している。	管理者が契約時に利用者と家族に対して、「利用者の重度化や終末期」について、「納所淀の家では医療に対応することはできない」と説明すると共に、家族の意向を聴取している。多くの家族は「終末期には生命維持の処置はしない。ここに置いてほしい」という意向である。職員は「最期まで見てあげたい」という人が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員までとはいかないが、施設内研修をはじめ外部研修も励行している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災への消防訓練では消防署参加、風水害(土砂災害)・地震への避難訓練も実施している。	火災に対する避難訓練は消防署の協力を得て年2回実施、風水害の訓練も実施している。地震対応や夜間帯の訓練はしていない。備蓄を準備、ハザードマップを事務室に掲示、職員は危険箇所を認識している。災害時の地域の人の協力は得られていない。災害時における法人内相互協力の規定はない。	地震対応や夜間帯対応の避難訓練を実施すること、災害時に地域の人の協力が得られるように依頼すること、法人内の職員が相互に協力しあうような規定を作成すること、以上の3点が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを大切に、利用者に寄りそった声かけを行い、人格や誇りを尊重し、プライバシーの確保に配慮した対応を心掛けている。	高齢である利用者に対しては丁寧な対応と言葉遣いを方針としており、職員は守っている。親しくなつてなれなれしくならないように注意している。職員会議は事務室で、職員間の申し送りは小声で行い、利用者のプライバシーに配慮している。暮らしの中で利用者が判断して選択できるように工夫している。髪形、お化粧、髪のカラー等のおしゃれや着る服等は職員の押しつけでなく、利用者の好みに合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを汲み取り選択して頂けるような関係づくりや、思いや希望を直接的に表現される方には実現可能な形で提案し、買い物や外出の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康保持・清潔保持に配慮しつつ、できるだけ一人ひとりのペースに合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には職員がアドバイスしつつ利用者に選んで頂き、準備等をされる家族へは、最近の好みや希望をお伝えしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は体調管理のため外部発注しているが誕生日やリクエスト食・行事食を提供。片付け等、行える範囲で手伝って頂いている。	朝食は買い置き食材を見て夜勤者が献立を立て調理している。昼食と夕食はカロリー値・栄養バランスを点検した調理済みの副食を「ワンツースリー」から購入、必要なものは温めて一人ずつに盛り付けている。ごはんのみそ汁はユニットで調理している。1か月間の予定献立のみならず、リクエスト食や行事食の依頼も可能である。季節感のあるバラエティに富んだ献立となっている。利用者は職員と一緒に業務スーパーへ食材の買い物に行ったり、盛り付けをしたり、下げ膳したりしている。4、5人が食卓を囲み会話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に摂取量などの管理を行い、食事形態・塩分調整・カロリー制限等を個々に応じたものを提供、職員も一緒に着席し食がすすむよう声掛け等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力の応じて自己で出来る限り行ってもらい、出来ない所を介助。定期的な歯科でのチェックとポリドントによる清潔保持も実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日を通して排泄チェック・排泄パターンの把握、声掛け・誘導し定期的に排泄用品の見直しも行っている。	布パンツ使用でトイレの場所を知っているという、排泄が自立している利用者は3人、日中もおむつ使用の利用者は2人である。あとの利用者はリハビリパンとパット使用、「トイレ」という声や表情、立ち上がる等の動作を察知した職員がトイレ誘導、介助している。運動と水分提供で自然排便を支援しているものの多くの利用者は下剤を服用している。おむつ使用からリハビリパンとパットになったという改善した利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には水分摂取と運動を勧めると共に、ドクターと連携し服薬等によるコントロールも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴できるよう利用者の希望や体調に合わせて清潔保持できるよう対応を行っている。基本的には安全確保の為、日昼での入浴となるが状況に合わせて時間変更を行うこともある。	浴室はこじんまりとした家庭風呂で個浴を据えている。毎週2回の入浴を支援している。声をかけた時、「入りたくない」という入浴拒否の利用者には、日や時間を変えたり、別の職員が声をかけたり等の工夫をしており、入浴していない利用者はいない。湯の温度や湯に浸かっている時間等は利用者の好みに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペース、体調に合わせて日中短時間での仮眠を勧める、夜間安眠できるように運動等を促すなど、個々に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容・副作用等の薬説明書をファイルでいつでも確認できるようにしている。また服薬チェック表で服薬確認も行っている。薬剤師と連携し、薬局とも協力体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた作業・家事の手伝い等を行い、日々の外出や行事などで気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族による外出や日々の散歩、希望や意向を汲取り個別に外出の機会を設け支援している。	ホームの前の旧国道は車の往来が多いので、ふだん利用者はホームの裏にある洗濯干し場に洗濯物を持って行ったり、ごみ置き場にごみを持って行く等をしている。散歩は車椅子を押したりしながら、ホームの周りや淀競馬場まで行ったりしている。季節のドライブは淀競馬場での花見である。「パンが食べたい」という利用者に通院の帰りにパンとコーヒーを買う等している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、本人・家族要望時には買い物等で支援している。希望があれば個別に、買い物等に出かけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば電話・手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃による清潔保持とリビングには利用者と共に作成した飾り絵や塗り絵、季節に応じた壁画などを掲示し居心地の良い、家庭的な空間作りを行っている。	玄関を入れてエレベーターで上がると2階と3階に各ユニットの玄関がある。下駄箱があり、その上に折り紙で作った季節の花を飾っている。ドアを開けると左右に廊下が延び、中央にミニキッチン付きの居間兼食堂がある。ゆったりと広く、大きな窓から四季の風景が見える。廊下の片側に居室、反対側にスタッフ室、トイレ、浴室等が並んでいる。廊下の壁に職員と利用者が一緒に作った大きなちぎり絵や干支のイノシシの絵を貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルの他、ソファスペースなど利用者同士で会話したり、テレビ鑑賞したりできる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みのもの馴染のものを持ち込み、本人と相談しながら居心地の良い空間で過ごせるよう配慮している。	居室は洋間、奥の窓が大きく明るい。ベッド、椅子、収納庫を備えている。利用者は寝具類、使い慣れた筆筒、大きな時計等を持ち込んでいる。寝具、壁に貼った自作の塗り絵、誕生日に職員からプレゼントされたカード、筆筒の上においた家族の写真、折り紙で作った花飾り等々が利用者らしさを表している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、整理整頓を行い、安全に自由に行動できるよう工夫し、環境づくりを行っている。		